

沖縄キリスト教学院大学FD委員会
(編・著)

2016年度 前期

学生による授業改善アンケートと
改善に向けての取り組み

巻頭言

第1章 授業改善アンケート結果の概要

第2章 科目・クラス別の数値及び自由記述

巻頭言

2016年度 前期

学生による授業改善アンケートと改善に向けての取り組み

沖縄キリスト教学院大学
学長 友利 廣

大学審議会は2005年の答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」において、「教育の質の向上を不断に図る観点から、学生の卒業時の質の確保に向けた教育機能の充実強化の実施状況を常に自ら評価することが重要であり、自己点検・評価の取組を更に推進する必要がある」とし、「教育活動の中核である授業の実態を確実に把握することが基本であり、その上で、大学の組織的な教育活動に対する評価及び個々の教員の教育活動に対する評価の両面から評価を行うことが重要である」と指摘している。そこで「学生の学習意欲の向上に資するため、学生にとって授業をより分かりやすくするための工夫を行うなど、学生の視点に立った授業改善を行うことが必要であり、これに役立てることを目的として、各大学においては、学生による適切な授業評価を実施するとともに、その結果の公表等を通じて教員の教育改善への取組に生かしていくことが重要である」との認識を示した。

この答申は、1991年の大学設置基準の一部を改正、所謂、大綱化を踏まえたもので、そこには大学自ら教育研究活動等について自己点検と評価に努めなければならないと定め、1999年には点検・評価結果の公表を含めて義務化を求めたのである。

以上は、要するに大学設置基準が大綱化され、大学を取り巻く環境が大きく変化した結果として大学入学者の多様化が進み、大学教育の在り方も根本からの見直しが求められる時代となったことを追認していることになる。

さて、英語コミュニケーション学科の授業評価は1999年から始まっている。授業評価に関するアンケート調査は個票の集計結果に統計処理を施し分析を行っているが、集計化されることによって受講生個人々の講義に対する意見が隠れてしまうことになる。その善後策として、教員側が受講生の意向をしっかり受け止めて学びと指導の両輪が上手く噛み合うようにするために自由記述欄が設けられていることは特筆できよう。

ところで、進級に伴って学ぶべき領域は広がり講義の難易度は自ずと高まることになる。大学教育が直面している厳然たる事実を踏まえた上で、教育の実質化を如何に深めるかと言う事が教員と学生に求められている。その為には、教員側が講義に臨んで周到的準備作業を怠らず、又、学生側は予習復習を地道に行うと言う相互の取り組みがあって始めて教育効果が表れるというを確認しておきたい。

今後の取り組みとして、調査票の設計を行うに際して、教員であれば講義の準備作業、学生であれば予習復習と言う両者の対応状況を設問項目として設け、調査の実効性を高める工夫も必要であろう。また、講義の理解度を高めるために教員は毎回学生の質疑に応えキメ細やかに応答する仕組みを確立することも必要であろう。

最後に、講義中の貴重な時間を割いた授業評価に係るアンケート調査となっているが、快く協力してもらっている学生の皆さんにまずはお礼の言葉を述べたいと思います。また、多忙を極める中で分析を担当して下さった新垣友子先生、企画推進課の職員の方々に対してもお礼を申し上げる次第です。

沖縄キリスト教学院大学
FD委員会委員
(2016年度 前期)

友 利 廣 (委員長・学長)
新 垣 誠 (委員・人文学部長)
Christopher Valvona (委員・英語コミュニケーション学科長)
照 屋 信 治 (委員・英語コミュニケーション学科教授)
友 利 道 明 (委員・企画推進課課長)
平 良 みどり (委員・企画推進課主任)

執筆者

新 垣 友 子 (英語コミュニケーション学科 准教授)

沖縄キリスト教学院大学

2016年度 前期

学生による授業改善アンケートと

改善に向けての取り組み

第1章

学生による授業改善アンケート結果の概要

はじめに

2014年度前期より、従来の授業評価アンケートを大幅に見直し、授業評価アンケートが、教員の授業改善の参考資料となるよう、工夫がほどこされた。それによって学生による授業評価が教員管理に流用されることなく、教員自身の自己管理、自己研鑽の材料となるよう改善された。学生たちとともに授業を創るという理念のもと、学生の回答に対する教員のコメントを付記することで、教員が学生とともに授業改善を行えるようにしており、変更から2年半が経過したが、良好に機能している。本アンケートは以下のような特徴がある。

- ① 「履修動機についての質問」「学生自身の授業への取り組み」「授業への評価」「授業から得られた達成度」「総合的評価」「記述回答」の6つのカテゴリーに分類し、各教員が個々に、また、学部全体として、アンケート調査を分析的に検討できる。
- ② 授業開始直後に15分間を確保しアンケートの回答に充てる。学生にとっては、「振り返り」という教育的な意義があり、教員の側としては、しっかりとした記述回答の時間を学生に保障し、よりよい改善のための資料を得ようとする意図がある。
- ③ 授業改善アンケートの数値的評価、記述によるコメントは、授業ごとに学内HPで公表し、担当教員は改善に向けてのコメントを付す（コメントは200字以内）。学生たちは、自らのコメントが授業改善に生かされることを自覚し、より真剣にアンケートに回答するようになっている。また教員は、自らの授業への説明責任を果たす機会を得ることができる。さらに公表された授業改善アンケートは、シラバスとともに次学期以降の学生の授業選択の材料ともなる。

各質問項目の意図を以下に説明する。

履修動機について（質問1）

この質問は、「履修者数」「回答者数」と照らし合わせて、当該クラスの履修者の状況を把握することが目的である。授業者が個々の質問項目への回答を検討する際に必要なデータとなる。具体的には次のような質問である。

質問1 履修動機 3つを選択せよ

- ①授業内容に関心があったから
- ②教員に魅力があったから
- ③単位がとりやすそうだから
- ④友だちが多く履修しているから
- ⑤自分の専門に関係が深い分野だから
- ⑥幅広い教養を身につけるため
- ⑦先輩に勧められたから
- ⑧希望授業が取れなかったので仕方なく
- ⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから
- ⑩その他

I. 学生自身の授業への取組（質問2～6）

従来の授業評価アンケートは、教員の授業を学生が評価する、という意味合いを有していた。しかし、授業とは教員と学生とがともに創り上げるものであり、学生自身の取り組みもまた自省されなくてはならない。また、どれほど積極的な学びを促すことができたかを教員は確認しなくてはならない。具体的には、質問のあとに特に選択肢が示されていない限り、「①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う ⑥質問がこの授業に該当しない」という6項目の中から選択して回答する。

質問2	欠席回数	(①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席)
質問3	真面目に授業参加	
質問4	事前準備	
質問5	発展的学習	
質問6	週平均の授業時外学習時間	(①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上)

II. 学生による教員への授業評価（質問7～19）

この質問群では、狭義の授業評価アンケートといえるもので、教員の授業技術、方法、内容などの具体的な事柄を問うており、教員は改善点を見出すことができる。具体的には次のような質問を用意した。

質問7	聞きやすい話し方	
質問8	各回の授業内容の量が適切だった	
質問9	各回の授業内容は明確だった	
質問10	授業を乱す行為への対応	
質問11	教科書は妥当であった	
質問12	補助教材は効果的であった	
質問13	板書の仕方（パワーポイントなど）	
質問14	講義法以外の教授法（討論・発表など）	
質問15	教員の授業準備	
質問16	宿題・課題など	(①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)
質問17	クラスの規模（受講学生数）	(①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)
質問18	成績評価の基準の明確	
質問19	授業実施教室は適切か	

III. 授業を受けて得たもの（質問20～22）

この質問群では、学生がこの授業をうけて得たものを確認している。学生の達成度に関わる質問である。また、大学の授業において、学問的知識、専門的な知識、新しい考え方などを獲得することは重要であり、分かりやすい授業を目指すと同時に、高い専門性等を維持することが大学の教員には求められている。以下の質問項目を用意した。

質問 20	新しい考え方・発想／能力の向上
質問 21	基本的な専門知識
質問 22	意見をまとめて他者に伝える技術

IV.授業の総合的な評価（質問 23～26）

この質問群では、これまでの質問群を踏まえたうえで、授業の総合的な評価を行う。数値による総括的な評価である。しかし、ここで留意しなくてはならないことは、数値による授業評価が、教員評価、教員管理に容易に流用されかねない恐れである。大学の授業は、学生に分かりやすく行われるべきものであるが、それと同時に学問的・専門的知見に基づき行われるものである。学生に対して迎合的であってもいけない。あくまでもこの種のアンケートは教員個々人の授業改善を目的にして行われるべきであり、各教員の自省と研鑽と自己管理の材料として活用されるべきものである。その意味で、次の「記述による評価」と合わせて検討されるべきものである。具体的な質問項目は次の通りである。

質問 23	この授業で、自分自身が成長できた
質問 24	学問的・専門的興味をかきたてられた
質問 25	わかりやすい授業だった
質問 26	この授業を受けて満足した

記述による評価

数値による評価は比較を行う際や、全体を俯瞰する際には有効であるが、記述による評価の方が、授業改善には有効である。学生たちに、記述をより具体的に行ってもらえるように、アンケート時間を10分から15分に伸ばし、授業終了後から授業開始直後に行うようにした。ひとつひとつのコメントを丁寧に検討し、授業改善につなげていただきたく、具体的には以下の質問項目を用意した。

質問 27	この授業で良いと思ったこと
質問 28	この授業で改善すべきだと思った点
質問 29	教員が用意した質問

このような授業改善アンケートを全75科目、105クラスにおいて実施した。投与された評価表は2890件に上った。

1 学生による授業改善アンケート結果の概要

授業改善アンケートは、基本的に各教員と生徒たちの対話に基づく授業改善の材料を提供するものである。よって各教員の検討と分析が求められるものである。その内容に関しては、「記述による評価」や「授業改善アンケートへの教員コメント」を参照いただきたい。

しかし、数量的なデータを俯瞰することにより、学部全体での課題がみえてくるものでもある。全体的な統計にそぐわない質問項目もあるが、全体の平均値や、選択肢の選択率を示し、若干の考察を加えたい。

質問項目	度数	平均値
質問1 履修動機(3つまで) (①授業内容に関心があったから ②教員に魅力があったから ③単位がとりやすそうだから ④友だちが多く履修しているから ⑤自分の専門に関係が深い分野だから ⑥幅広い教養を身につけるため ⑦先輩に勧められたから ⑧希望授業が取れなかったので仕方なく ⑨必修(あるいは免許取得に必要)だから ⑩その他)	6144	-
質問2 欠席回数 (①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席)	2559	3.40
質問3 真面目に授業参加	2553	4.15
質問4 事前準備	2574	3.81
質問5 発展的学習	2572	3.66
質問6 週平均の授業時外学習時間 (①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1~2時間 ④2~3時間 ⑤3時間以上)	2572	-
質問7 聞きやすい話し方	2574	4.33
質問8 各回の授業内容の量が適切だった	2583	4.35
質問9 各回の授業内容は明確だった	2572	4.33
質問10 授業を乱す行為への対応	2554	4.34
質問11 教科書は妥当であった	2572	-
質問12 補助教材は効果的であった	2569	-
質問13 板書の仕方(パワーポイントなど)	2495	4.25
質問14 講義法以外の教授法(討論・発表など)	2566	-
質問15 教員の授業準備	2556	4.42
質問16 宿題・課題など (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)	2571	3.06
質問17 クラスの規模(受講学生数) (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)	2579	3.05
質問18 成績評価の基準の明確	2569	4.16
質問19 授業実施教室は適切か	2573	-
質問20 新しい考え方・発想/能力の向上	2564	4.18
質問21 基本的な専門知識	2564	4.14
質問22 意見をまとめて他者に伝える技術	2555	-
質問23 この授業で、自分自身が成長できた	2561	4.18
質問24 学問的・専門的興味をかきたてられた	2564	4.12
質問25 わかりやすい授業だった	2563	4.23
質問26 この授業を受けて満足した	2563	4.28

上記の表では、設問毎の平均値等を掲げた。質問6、質問16、質問17の選択肢は表中に記した。それ以外の選択肢は、「①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う」である。質問11、質問12、

質問 1 4、質問 2 2 には「⑥質問がこの授業に該当しない」の選択肢が付加されている。平均値を表すのに不適切な質問 1、質問 6、質問 1 1、質問 1 2、質問 1 4、質問 2 2 には表中に「－」を記入した。

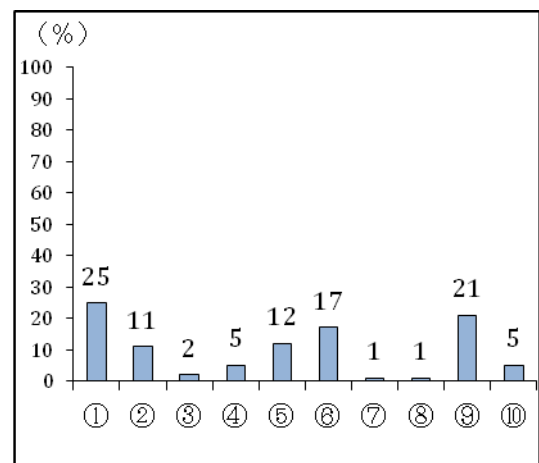
また、以下に各質問の選択肢の選択率のグラフを示している。比率の表記は少数点第一位を四捨五入した形で示し、また、欠損値を除いた有効パーセントで示している。

履修動機について（質問 1）

質問 1 この授業を履修した動機を最も適切なものを 3 つ選択して下さい。

質問 1 履修動機

- ①授業内容に関心があったから
- ②教員に魅力があったから
- ③単位がとりやすそうだから
- ④友だちが多く履修しているから
- ⑤自分の専門に関係が深い分野だから
- ⑥幅広い教養を身につけるため
- ⑦先輩に勧められたから
- ⑧希望授業が取れなかったので仕方なく
- ⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから
- ⑩その他



履修動機について最も多いのは、「①授業内容に関心があったから」（25%）であり、「⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから」（21%）、「⑥幅広い教養を身につけるため」（17%）、「⑤自分の専門に関係が深い分野だから」（12%）がそれに続く。履修選択に際しては、授業内容や専門分野との関連性等を重視しており、積極的理由に基づいた選択がなされていることが伺える。

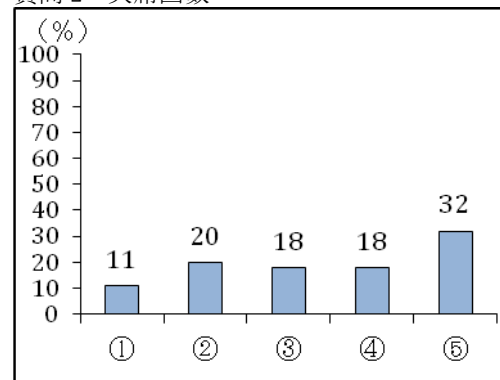
履修動機は、過去 2 年間上位 3 項目は変わっていない。第 4 番目に挙げられた「⑤自分の専門に関係が深い分野だから」は、過去 2 年間ずっと第 5 番目であったが、今回初めて「②教員に魅力があったから」を上回っている。「教員の魅力」も 11% と相変わらず安定した履修動機の一つであるが、2015 年度前期と比較すると「⑤自分の専門に関係が深い分野だから」が 4% も上がっていることから、より自分の専門に関心に向いていることを示唆している。過去 2 年間において「①授業内容に関心があったから」は 23%～25% と安定しており、「⑦先輩に勧められたから」や「⑧希望授業が取れなかったので仕方なく」の項目は 1%～2% にとどまっていることから、能動的に授業の選択を行っている傾向がみられる。

I. 学生自身の授業への取組（質問2～6）

質問2 授業全体を通じての欠席回数は何回くらいですか。

- ① 4回以上
- ② 3回
- ③ 2回
- ④ 1回
- ⑤ 皆出席

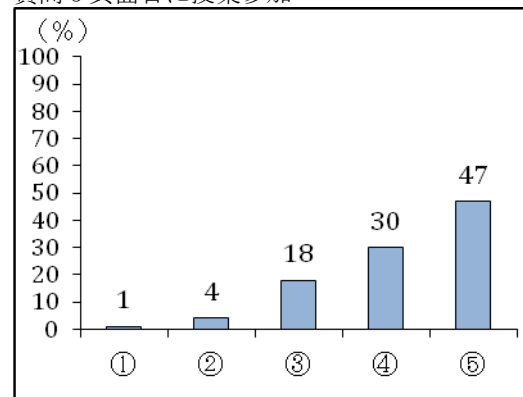
質問2 欠席回数



質問3 私語・居眠りなどせずに真面目に授業に参加した。

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

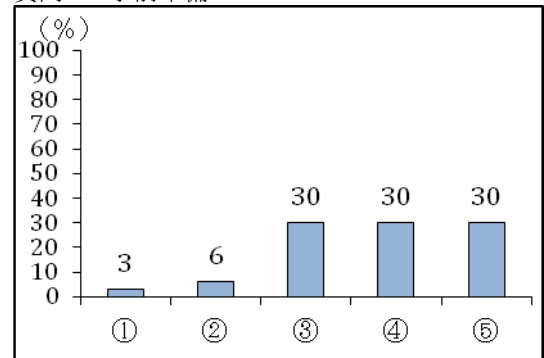
質問3 真面目に授業参加



質問4 この授業の履修にあたって十分な準備ができていた（どのような授業か調べて履修したか、自分の学力レベルにあっているかを確認したか、など）

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

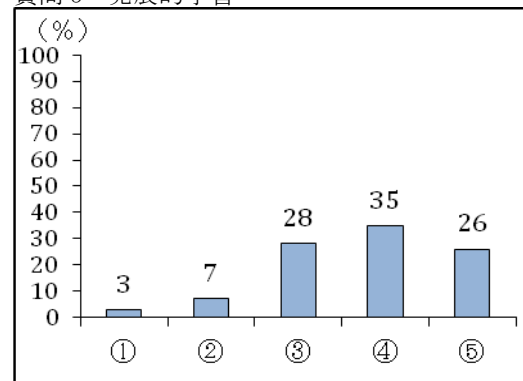
質問4 事前準備



質問5 授業をきっかけにして自分自身で発展的な学習をした

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

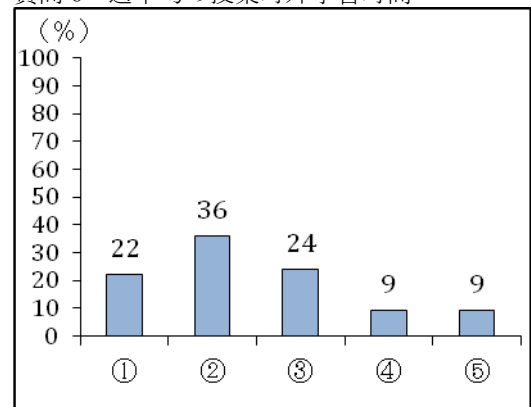
質問5 発展的学習



質問6 この授業に関連して、授業時以外に学習した時間（平均して1週間で）

- ①ほぼ0時間
- ②1時間未満
- ③1～2時間
- ④2～3時間
- ⑤3時間以上

質問6 週平均の授業時外学習時間



質問2の欠席回数に関しては、「⑤皆出席」が32%を占めているが、2014年度後期の結果（25%）、2015年後期（27%）と比べて、5～7%増となっている。これは、2015年度前期（32%）と同じ結果である。また、「①4回以上」の欠席は11%を占めており、2014年度後期の結果（16%）、2015年度後期（15%）、より減り、2015年度前期の結果（10%）より1%増となっている。前期・後期の比較では、前期において、皆出席率が増加し、4回以上の欠席率が減少する傾向が指摘されているが、今回の結果もその例外ではない。この結果は、選択必修科目も含め、前期に必修科目が多く開設されていることと関連しているであろう。本来、必修のいかんを問わず、出席することが当然だが、必修か否かという条件が出欠の判断要因となっているのであれば忌々しきことである。今後、欠席の理由を問う質問項目を追加することで、勤怠状況の改善に資する知見が得られるのではないだろうか。また、夏休みを堺にバイトなど生活リズムに変化が生じたのであれば、後期に向けたアドバイザーからの生活面の指導体制も検討する必要があるだろう。

質問3の真面目に授業参加に関しては、「⑤大いにそう思う」（47%）と「④そう思う」（30%）を合わせると77%を占めており、過去2年の74%～81%の結果からすると平均的な数値となった。受講態度については、経年ごとに改善し2015年後期（81%）まで伸びていたが、今学期は改善の流れが止まったため、今後注視する必要がある。また、質問4の事前準備についても、「⑤大いにそう思う」（30%）と「④そう思う」（30%）の合計が60%で、2014年度後期（63%）、2015年度前期（61%）。2015年度前期（67%）と比べ低くなっている。2014年前期（56%）よりは上がっているものの、履修科目の選択・登録に際して、適切な指導や助言を徹底する必要性を示していると言えるだろう。さらに、質問5の発展的学習については、「⑤大いにそう思う」（26%）、「④そう思う」（35%）の合計が61%で、2014年度前期（56%）後期（61%）、2015年度前期（55%）と比べると同等か良いが、2015年後期（63%）と比べると2%の減となっている。質問3、4、5に関して、今回は2015年後期と比べ、真面目な態度、事前準備、発展的学習が共に減少した。前回、これら3項目が全て伸び、発展的学習と授業に対する真面目な態度との間にも連関性を示唆する分析がされたが、今回もそれらの項目全てにおいて伸び悩むという残念な連関性がみられた。後述するが、前期と後期の授業の種類が異なる可能性とも関連性していると思われる。

る。

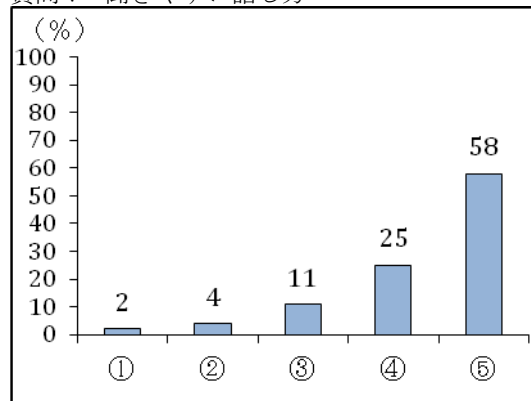
一方、質問6の授業時外の学習時間については、1コマ90分の授業に必要とされる3時間、または2～3時間の授業外学習に取り組んだ割合は合わせて18%で、2014年度前期（17%）、後期（15%）、2015年度前期（16%）、2015年度後期（14%）と比較すると、1～3%の向上が見られた。また、2014年前期よりずっと授業外学習0時間から1時間未満の学生が59%～63%と増加していたが、今学期は58%と歯止めがかかり、わずかではあるが学習の量的改善が見られたのは評価できる。

Ⅱ.学生による教員への授業評価（質問7～19）

質問7 聞きやすい話し方だった（スピー
ド・音量・マイクなども含む）

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いに思う

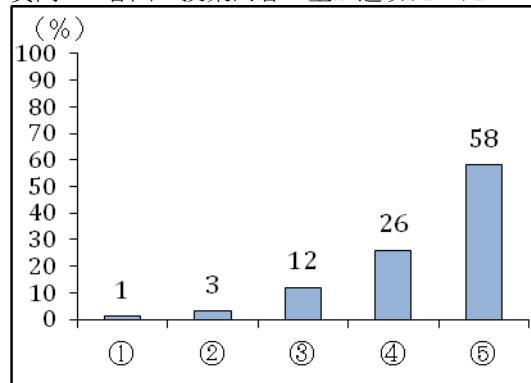
質問7 聞きやすい話し方



質問8 各回の授業内容の量が適切だった

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いに思う

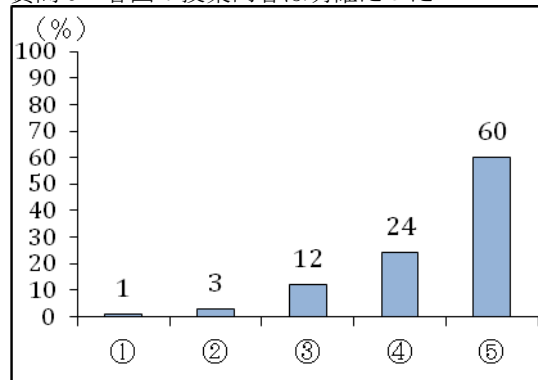
質問8 各回の授業内容の量が適切だった



質問9 各回の授業内容は明確だった

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いに思う

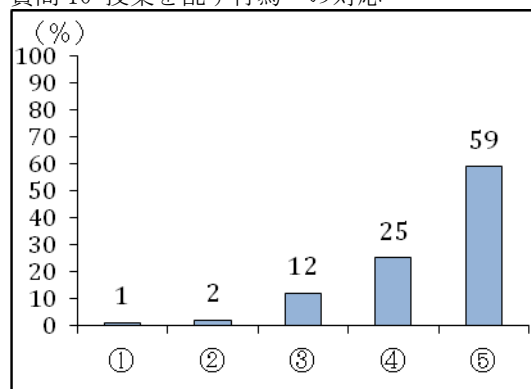
質問9 各回の授業内容は明確だった



質問 10 教員は授業を乱す行為（私語・携帯電話・メール・居眠り・中座等）に対して適切な対応をした

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

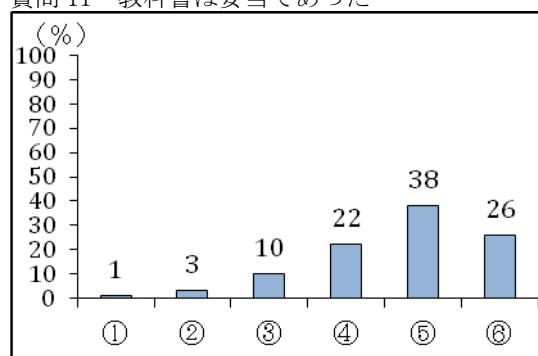
質問 10 授業を乱す行為への対応



質問 11 教科書（難易度・使用頻度など）は妥当であった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

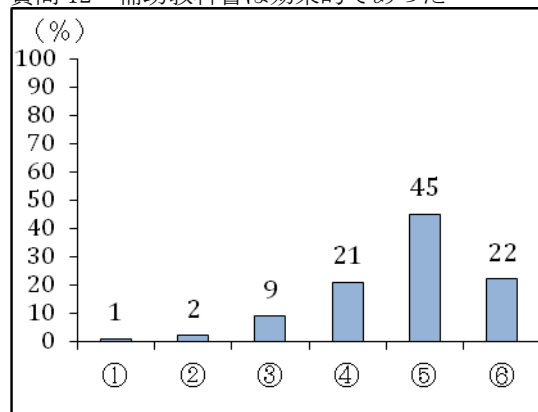
質問 11 教科書は妥当であった



質問 12 補助教材（授業プリント・視聴覚教材）は効果的であった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

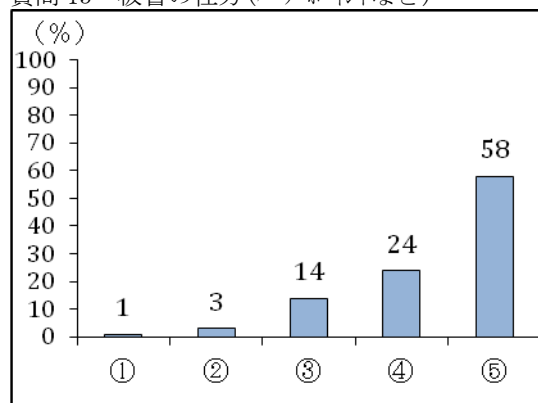
質問 12 補助教科書は効果的であった



質問 13 板書の仕方（あるいはパワーポイントなど）は適切だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

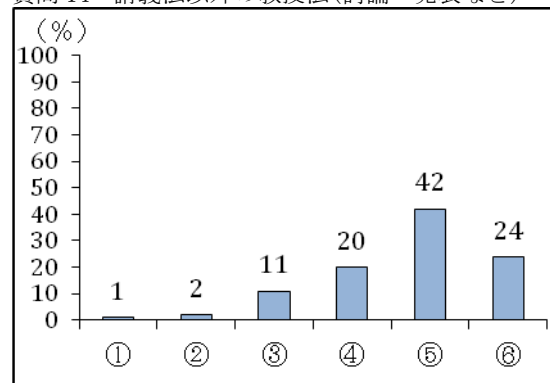
質問 13 板書の仕方(パワーポイントなど)



質問 14 教員は説明中心な講義法以外の教授法（討論・発表など）を必要に応じて適切に用いていた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

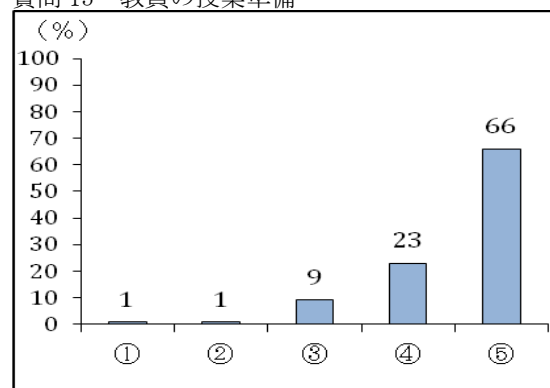
質問 14 講義法以外の教授法（討論・発表など）



質問 15 教員は授業の準備を周到に行っていた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

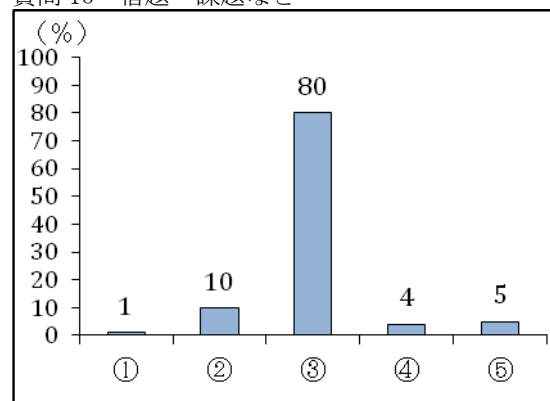
質問 15 教員の授業準備



質問 16 宿題・課題など授業外に必要な学習の時間や量は適切だったか

- ① 多すぎる
- ② すこし多い
- ③ 適切である
- ④ すこし少ない
- ⑤ 少なすぎる

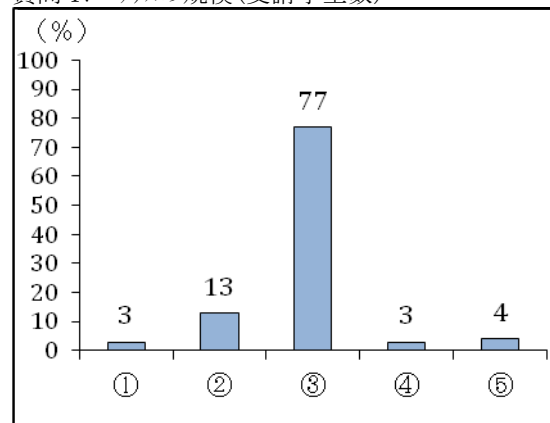
質問 16 宿題・課題など



質問 17 クラスの規模（受講学生数）は適切
だったか

- ①多すぎる
- ②すこし多い
- ③適切である
- ④すこし少ない
- ⑤少なすぎる

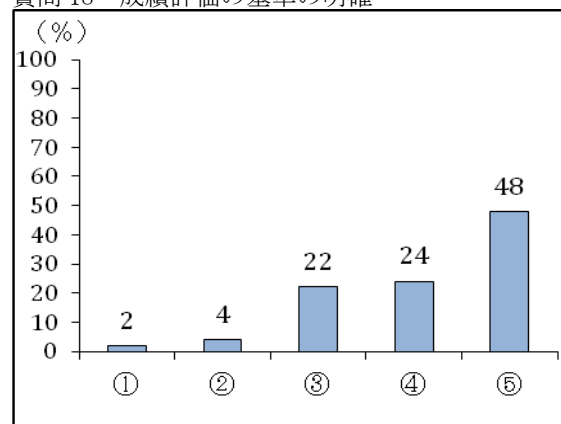
質問 17 クラスの規模(受講学生数)



質問 18 成績評価の基準を明確に示して
いたか

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

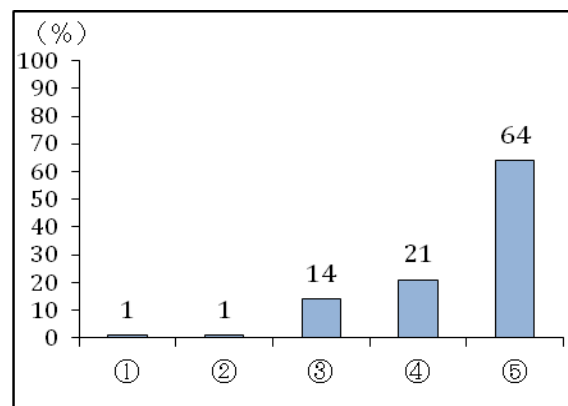
質問 18 成績評価の基準の明確



質問 19 授業実施教室（広さ・明るさ・設
備・視聴覚機器の配置）は適切で
あったか。

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

質問 19 授業実施教室は適切か



本質問項目群は、狭義の授業評価アンケートと言えるもので、教員の授業技術、方法、内容などを問うものとなっている。質問7の「聞きやすい話し方」、質問8の「各回の授業内容の量」、質問9の「各回の授業内容は明確さ」、質問10の「授業を乱す行為への対応」、質問13の「板書の仕方（パワーポイントなど）」、質問15の「教員の授業準備」は、「⑤大いにそう思う」・「④そう思う」の合計がいずれも82%を超え、高い評価を得ている。これらの結果から、概ね、学生の満足を満たす授業運営がなされていると言えよう。また、2015年度後期、と比較してみるとほぼ全ての項目で1%～4%の低下が見られた

が、2014年度前期後期、2015年前期と比較してみると、ほぼ平均的な結果であった。せっかく上昇した直近の結果を維持できなかったのは反省点だといえよう。

また、前回の指摘と同様、質問16「宿題・課題などの量」について、80%の学生が「③適切である」と回答している点は看過できない。質問6の「週平均の授業時外学習時間」の結果が、「①ほぼ0時間」が22%、「②1時間未満」が36%と、学習時間が1時間に満たない学生の割合が58%を占めていることと照らし合わせると、本当の意味で宿題・課題の量が適切であるか疑わしい。上述の通り、その数値は改善されてきているとはいえ宿題・課題の準備についても、周到になされる必要があると言えるだろう。

質問11「教科書の難易度、使用頻度」に関して「⑤大いにそう思う」・「④そう思う」の合計が60%しか得られていないのは、今後その実態に関して検討が必要であろう。この項目に関しては、前期の平均が63%、後期の平均が72%と大きな開きがあることから、開設科目との関連性を吟味し、担当教員と問題を共有し解決をはかる必要がある。

また、質問18「成績評価の基準の明確さ」については、「⑤大いにそう思う」(48%)、「④そう思う」(24%)の合計が、72%で2015年度後期よりさらに6%下がっている。過年度の結果からしても2番目に低く、成績評価の基準を明確に示すことが急務である。シラバスへ明記すると共に、適宜確認するなど、改善に向けた努力・工夫が必要である。

さらに、教育環境の適切さを問う質問に関しては、質問17「クラスの規模」で77%の学生が「③適切である」と回答し、質問19「授業実施教室の適切さ」では、「⑤大いにそう思う」・「④そう思う」の合計が85%と、高い評価となっている。今後も、教務と連携し、各クラスに適切な学生数の配置・教育環境の提供ができるよう努めていきたい。

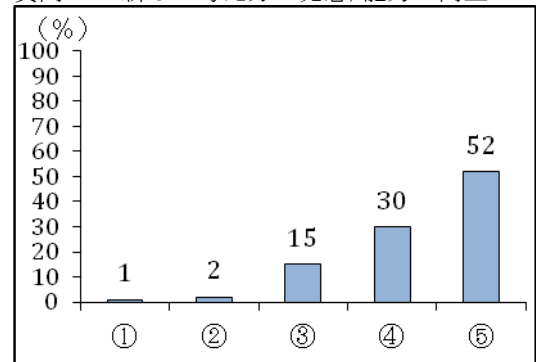
本質問項目群に関しては、前・後期で結果に大きな違いが指摘されており、2016年度前期も2014年度後期、2015年度後期と比べるとポイントが下回っていた。しかし、前期の中では2016年度が一番高いため、改善されてきていると受け取れる。前・後期で違いが見られる点については、今後、その要因を分析・考察する必要があると思われる。

Ⅲ.授業を受けて得たもの(質問20～22)

質問20 新しい考え方・発想を獲得した/今まで持っていた能力を向上できた

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

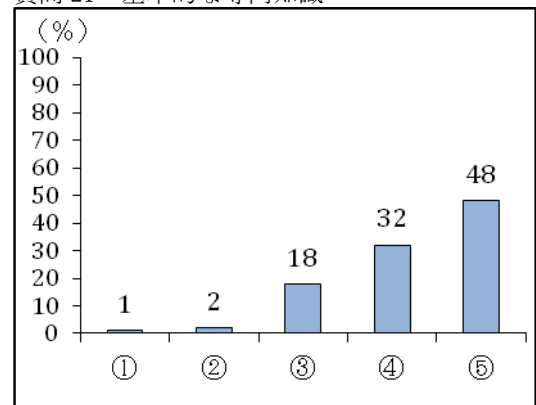
質問20 新しい考え方・発想/能力の向上



質問 21 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識を得ることができた。

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

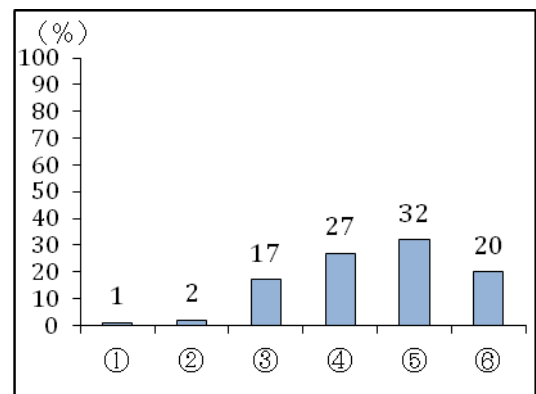
質問 21 基本的な専門知識



質問 22 自分の意見をまとめて他者に伝える技術(発表・レポート)を得ることができた。

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

質問 22 意見をまとめて他者に伝える技術



本質問群は、達成度に対する学生の自己評価を測る質問から成るが、質問 20 「新しい考え方・発想／能力の向上」及び質問 21 「基本的な専門知識を得る」は、何れも、「⑤大いに思う」・「④そう思う」の合計が 80% を超え、高評価となっている。前回、ここでも前期と後期の差が指摘されており、後期（2014年度、2015年度）は 80% を超えているが、前期（2014年度、2015年度）は 80% を下回っていると指摘されている。しかし、2016年度前期は過去 2 年の前期と比べると最高値であったことから、ここでも改善が伺える。

本学で提供されている授業は、「知識の習得」を主たる目的とする授業と、「技能の習得」を主たる目的とする授業とに大別することができるが、前期で配置されている授業の特性が、後期のそれと大きく異なっているとすれば、自ずと本質問群の結果にも違いが生じることが予想される。即ち、「技能習得型」の授業が後期より前期に多く設置されているのであれば、質問 20 や質問 21 に対する値は低いものになることも大いに考えられる。より正確な結果を得るためには、授業の特性を踏まえ、結果の集計を両者に分けて行う必要があるのではないだろうか。

教員に対する評価に対し、学生の達成度に関する自己評価が低いという指摘が過去の分析においてなされているが、今回も「II. 学生による教員への授業評価（質問 7～19）群で「⑤大いに思う」は 50% を超える結果が 7 つと高い結果であった。それに対して、本質問群での「⑤大いに思う」の比率が 50% を超える質問項目は、前回なかったが、今年度は 1 項目あった。学生達が教員に高い評価を与えるのに対して、自らの達成

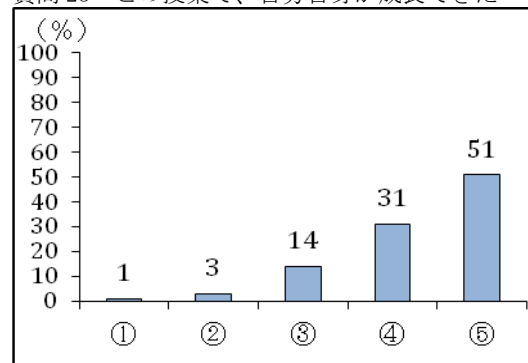
度を比較的強く評価する傾向は依然としてあるとはいえ、改善もみられる。

IV.授業の総合的な評価（質問23～26）

質問 23 この授業をつうじて、自分自身が成長できた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

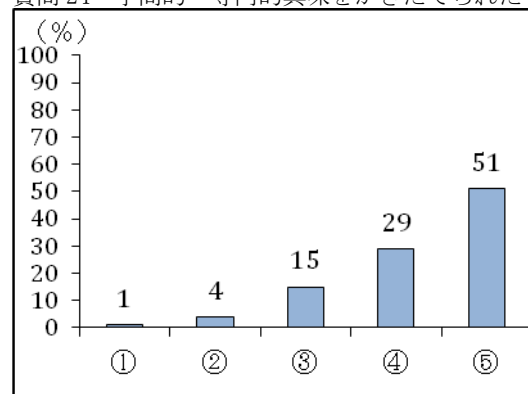
質問 23 この授業で、自分自身が成長できた



質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

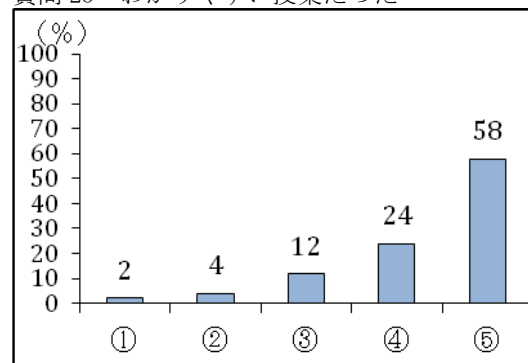
質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた



質問 25 わかりやすい授業だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

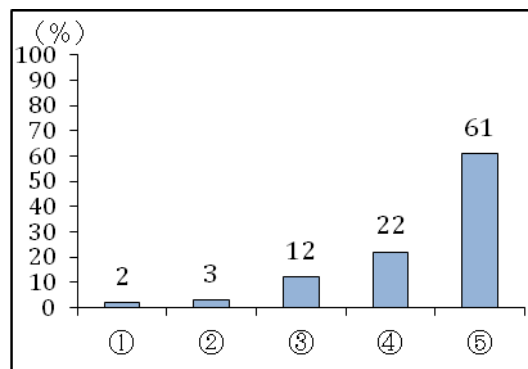
質問 25 わかりやすい授業だった



質問 26 この授業を受けて満足した

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

質問 26 この授業をうけて満足した



本質問群は、授業の総合的な評価を問うもので、学生の自己評価と教員に対する評価とから成っている。自己評価に分類される質問 2 3 「この授業で、自分自身が成長できた」については、「⑤大いにそう思う」・「④そう思う」の合計が 8 2 % と、高評価となっている。また、教員に対する評価に分類される質問 2 5 「分かりやすい授業だった」についても同様に、「⑤大いにそう思う」・「④そう思う」の合計が 8 2 % と、高評価を示している。過去の分析において、教員に対する評価に比べ、自己評価が低い傾向にあることが指摘されていたが、本年度の結果を見る限り、質問 2 3 と質問 2 5 の差はなく、前回に引き続き状況は改善されてきていると言えそうだ。

また、前・後期で比較に関しては、前期（2014年度、2015年度）の質問 2 3 と質問 2 5 の結果の、「⑤大いにそう思う」・「④そう思う」の合計が何れも 8 0 % を下回っていると指摘されていたが、2016年度の前期は何れも 8 2 % と高い結果であった。言い換えれば、今回の両項目における結果は前期では過去最高である。とはいえ、単年度の結果では改善したと結論付けられないし、数値があがった要因も定かでないため、引き続き前・後期の数値の推移に関しても留意する必要がある。

質問 2 4 の「学問的・専門的興味をかきたてられた」については、「⑤大いにそう思う」（53%）・「④そう思う」（29%）を合わせると 8 0 % であった。2015年度後期（82%）と比べると 2 % の低下がみられたが、2014年度前期（74%）、2015年度前期（75%）と比べると増加した。これまで前期の数値と比較すると 5 % ~ 6 % 改善されているといえる。

最後に、質問 2 6 の「この授業を受けて満足した」については、今年度前期が「⑤大いにそう思う」（61%）・「④そう思う」（22%）を合わせて 8 3 % となっているが、2014年度前期（80%）、2015年度前期（80%）と比較すると 3 % の増加が見られる。しかし過去の後期（2014年度、2015年度）からすると 2 % ~ 4 % 下回っており、やはり前・後期の解説科目の専門性などとの関連が示唆されている。

2 自由記述による評価（改善点を中心に）

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善してほしい点、③教員が用意した質問の 3 つの設問から構成されている。数値からは知り得ない学生の生の声・本

音に触れられるところが、自由記述評価の長所・利点と言えよう。質問27「この授業で良いと思ったこと」では、授業運営における教員の意図が学生に伝わっているかどうかといったことについても確認することができる。また、質問28「この授業で改善すべきだと思った点」では、文字通り授業改善に資する有益な意見や提言を得ることができる。そのような意義を踏まえ、授業改善に資する資料を得る目的で、2014年度に見直しを図って以来、多くの意見を徴している。

質問29は、教員自ら用意する質問だが、今学期は、「一番印象に残ったテーマとあなた自身の学びについて」、「英語を使って何をどうしたいのか、どうして英語を学んでいるのか」、「テキストについての感想」、「この講義（実習）を通して成長した点は」などの質問が散見された。質問11でテキスト選定の課題点が挙げられたこともあり。このような質問は教員側にとっても今後の教材開発や授業運営に役立つ貴重な資料となり得るものであるため、学部側としてもより多くの教員がこの欄を有効活用するよう奨励したい。

2014年度より、学生によるコメントだけでなくアンケートの数値に関しても、教員の応答コメントとともに学内HPに公開しているが、授業改善アンケートの数値・コメントが公開され、学生・教職員の目に触れることになったことで、教員においては、これまで以上に担当科目に真摯に向き合う姿勢が醸成されていくことが期待される。この情報公開のシステムは、教員による自己管理・授業改善の努力を促す役割も担い、それが上手く機能していると思われる。

一方、アカデミックハラスメントなどの対応については、教員の自己管理を超えて、管理職により、またそれに対応する委員会などが迅速に行うものとする。しかし授業改善アンケートの一義的な目的は、教員による授業改善の努力を促すものである。

学生からの記述によるコメントの中には、少数ながら教員への礼を失する内容のものもあり、誹謗中傷に該当するものに関しては、企画推進課および学部長・学科長の判断で公開は取りやめた例も過去にはある。しかしながら、学生からのコメントが安易な中傷目的ではなく、複数から同様にネガティブなコメントが寄せられた場合は、直接学部長や学科長に報告され、必要に応じて教員とミーティングを持ち、改善策や反省点などを話し合うことになっている。この方法は、コメントによって教員を傷つけるのではなく、改善を第一に考えた手続きであり、これからもこのような取組を通して、更なる改善の努力を続けたい。

公開される本冊子においては、教員名は教員コードに書き変えてある。個々の記述内容、および教員の改善に向けてのコメントは、第2章に掲載してある教員と学生との対話をご確認いただきたい。

おわりに

「授業評価の概要」で、アンケート数値から推察される本学部の課題については述べたので、ここでは、今回で3年目になる授業改善アンケートの実施に関して、全般

的な評価と課題の2点に言及したい。

まず、2014年以来、授業改善アンケートの理念・趣旨について教員及び学生に周知徹底を図ることが出来たと思われる。教員からのコメントの回収、学内HPにおける学生への結果公開（リプライ）も迅速に行われ、学生への公開も速やかに行うことができている。アンケート実施後、業者によるデータ入力、教員へのアンケート結果の配布、学生の回答に対するコメントの記入・回収など、いくつかのプロセスを経て情報公開に至るため、ある程度の時間を必要とすることは否めないが、今後もシステムを浸透させ効率よくアンケートを実施、公開するよう努めていきたい。

また、全体的な傾向として2014年当初に比べて、徐々に数値が良い方向に挙がっている傾向が見受けられる。一定の右上がりとはいえないまでも、多少の上下を伴いながら、全体的には上昇の傾向が見られることから、アンケート、結果公開（リプライ）が有効に行われてきていると考えられるのではないだろうか。次段落の課題とも関連するが、各学期の数値の推移を項目別に集計しグラフ化するなど、実際に全体が改善されているかの傾向を分析することでよりアンケートの有効性が判明すると思われる。

関連して、課題として挙げられるのは、アンケート調査から得られた結果数値の的確な分析方法の検討と、分析によって示された問題点・課題の共有や改善策に対応していく必要がある。例えば、「授業評価の概要」でも触れたように、前期・後期で結果の数値に差が見られるが、縦断的に分析する場合は、同一学期の結果を比較するなど、基準を設けた方がより正確な現状の把握に繋がると思われる。また、必修科目と選択科目との区別や、知識習得型授業と技能習得型授業との区別など、分析方法に関しては、多くの検討の余地がある。

今後は、このアンケート調査の結果を有意義な情報にするために、効果的なデータ分析方法を考え、またその情報も公開出来るように企画推進課と連携していきたい。また、授業改善アンケートが、個々の教員の授業改善の材料となり、学部の教育力の向上に繋がり、学生の修学意欲を高めるヒントになればと思う。

沖縄キリスト教学院大学 授業改善アンケート

このアンケートは、沖縄キリスト教学院大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。アンケートは、適切に処理されたうえで各教員に配布され、各教員が生データを見ることはありませんので、あなたの成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、皆さん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任を持って回答して下さい。集計されたデータは、本学 HP で公表され、全学生・教職員が確認できます。また、教員からの全般的な応答も確認できます。他の学生の授業履修の参考材料にもなりますので責任を持った記述をお願いします。

<履修動機についての質問>

質問1 この授業を履修した動機を最も適切なものを3つ選択して下さい。	選択肢	
①授業内容に関心があったから	1	2
②教員に魅力があったから	3	4
③単位がとりやすそうだから	5	6
④友だちが多く履修しているから	7	8
⑤自分の専門に関係が深い分野だから	9	10
⑥幅広い教養を身につけるため		
⑦先輩に勧められたから		
⑧希望授業が取れなかったので仕方なく		
⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから		
⑩その他		

<数値による評価>

以下の項目に対して、あなたにとって5段階のどの評価であるか、評価欄のあてはまる数字に○をつけて下さい。

- ①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う
⑥質問がこの授業には該当しない

I この授業へのあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか。	評価欄
質問2 授業全体を通じての欠席回数は何回くらいですか ①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席	1 2 3 4 5
質問3 私語・居眠りなどせずに真面目に授業に参加した	1 2 3 4 5
質問4 この授業の履修にあたって十分な準備ができていた（どのような授業か調べて履修したか、自分の学力レベルにあっているかを確認したか、など）	1 2 3 4 5
質問5 授業をきっかけにして自分自身で発展的な学習をした	1 2 3 4 5
質問6 この授業に関連して、授業時以外に学習した時間（平均して1週間で） ①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上	1 2 3 4 5

II この授業の進め方などに関連して、以下の項目にどの程度当てはまりますか。	評価欄
質問7 聞きやすい話し方だった（スピード・音量・マイクなども含む）	1 2 3 4 5
質問8 各回の授業内容の量が適切だった	1 2 3 4 5
質問9 各回の授業内容は明確だった	1 2 3 4 5
質問10 教員は授業を乱す行為（私語・携帯電話・メール・居眠り・中座等）に対して適切な対応をした	1 2 3 4 5
質問11 教科書（難易度・使用頻度など）は妥当であった	1 2 3 4 5 6
質問12 補助教材（授業プリント・視聴覚教材）は効果的であった	1 2 3 4 5 6
質問13 板書の仕方（あるいはパワーポイントなど）は適切だった	1 2 3 4 5
質問14 教員は説明中心な講義法以外の教授法（討論・発表など）を必要に応じて適切に用いていた	1 2 3 4 5 6
質問15 教員は授業の準備を周到に行っていた	1 2 3 4 5
質問16 宿題・課題など授業外に必要な学習の時間や量は適切だったか ①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる	1 2 3 4 5
質問17 クラスの規模（受講学生数）は適切だったか ①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる	1 2 3 4 5
質問18 成績評価の基準を明確に示していたか	1 2 3 4 5
質問19 授業実施教室（広さ・明るさ・設備・視聴覚機器の配置）は適切であったか	1 2 3 4 5

Ⅲ この授業からあなたは次のものを得ることができたと思いますか。	評価欄
質問20 新しい考え方・発想を獲得した／今まで持っていた能力を向上できた	1 2 3 4 5
質問21 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1 2 3 4 5
質問22 自分の意見をまとめて他者に伝える技術（発表・レポート）	1 2 3 4 5 6

Ⅳ 総合的に見て、この授業は以下の項目にどの程度あてはまりますか。	評価欄
質問23 この授業を通じて、自分自身が成長できた	1 2 3 4 5
質問24 学問的・専門的興味をかきたてられた	1 2 3 4 5
質問25 わかりやすい授業だった	1 2 3 4 5
質問26 この授業を受けて満足した	1 2 3 4 5

<記述による評価>

みなさん自身が授業をより良いものにするという意識のもと、率直かつ責任を持って記入して下さい。みなさんの回答は、教員が読み、授業改善の参考にします。無責任な誹謗中傷は厳に慎み、真摯な回答をお願いします。もちろん成績にはいっさい影響しません。

質問27 この授業で良いと思ったことがあれば書いて下さい。

質問28 この授業で改善すべきだと思った点があれば、実現可能な改善案を具体的に書いて下さい。

質問29 教員が用意した質問【 】

科目名： _____ 学籍番号： _____ 学年 _____ 性別（男女） 入試区分（一般 推薦 AO）